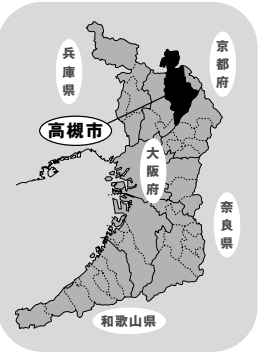
わたしのまちのPR（ピーアール）

高槻市編



高槻市は、大阪と京都の間に位置し、北摂連山の美しい山並みに包まれるとともに、淀川の豊な流れに抱かれ、文化都市として発展を続けてきました。

明治22年の町村制の施行により島上郡高槻村となった後、明治31年に高槻町となり、昭和６年に周辺４町村と合併、そして昭和18年に大阪府内で９番目に市制を施行しました。当時は人口３万人余りで田園風景が広がるのどかなまちでした。

その後、市内各地で住宅開発が進み、昭和40年代の人口急増期を経て、現在では人口36万人を擁する府内有数の都市となり、平成15年４月に府内で２番目に中核市に移行しました。この、高槻市の特長や強みといったことについて、市長公室理事兼総合調整室長の山川さんにお話を伺いました。

本日はどうぞよろしくお願いします。
早速ですが、高槻市の歴史やみどころについて教えていただけますか。

よろしくお願いします。

紀元前３世紀ごろには、安満（あま）遺跡のある地域（高槻市八丁畷町、高垣町ほか）で稲作が営まれていました。

高槻（高月）という名は、鎌倉時代から南北朝期にかけて初めて歴史上に登場します。

戦国時代にはキリシタン大名の高山右近がこの地域を治め、高槻城を中心に町の素地をつくり、江戸時代には譜代大名永井家三万六千石の城下町が形成されました。また、西国街道沿いに、「芥川宿」や「富田の寺内町」が栄えるなど、今日の都市発展の基礎が築かれました。

西国街道とは、江戸時代における伏見から西宮に至る脇街道のことですが、この道は大名の参勤交代や上方での往来で賑わいました。今でも市内に残る約400mの街並みは、古き良き情緒を残しています。

なお、高槻城の城郭跡は、現在「城跡公園」として整備され、市民の憩いの場となっており、右近像がここに建てられています。

歴史といえば、今城塚古墳が有名ですね。

史跡今城塚古墳は、６世紀前半に築かれた淀川流域最大級の前方後円墳です。全長350mで二重の濠をめぐらせた形や出土埴輪から、継体天皇の真の陵墓ではないかという説が有力といわれています。

多数の埴輪が元の位置をとどめて出土し、当時の祭祀の実態を知る上で画期的な発見といわれています。

出土した石棺は、熊本県の中央部に位置する宇土市で産出される馬門石（まかどいし）で作られています。この馬門石は凝灰岩の一種なのですが、ピンク色をしていることから「阿蘇ピンク石」とも呼ばれています。約1,500年もの昔に、宇土から高槻まで、約1,000kmの道のりを、約７トンもあるこの「大王のひつぎ」が海を渡った太古のドラマが偲ばれます。

平成17年８月には、石棺を復元し、熊本から古代船で大阪まで運搬するプロジェクトがあり、このプロジェクトと連携し、今城塚古墳で石棺を修羅（大きな木ゾリ）に載せて引くイベント「千人で運ぶ大王の石棺」を開催し、マスコミでも大きく取り上げられました。この約７トンもある大王の復元石棺を市民のべ1,500人で修羅に乗せて引き、古代のロマンを体感しました。ちなみに、石棺を運ぶための修羅も約２トンあり、合わせて約９トンもの重量を引きました。

また、平成19年３月には、横穴式石室の基盤である大規模な石組み遺構が発見され、日本全国から約

千人で運ぶ大王の石棺

家形埴輪（復元）

5,200人の考古学ファンが見学に訪れました。

現在、今城塚古墳から出土した３種類の石棺の復元を市民とともに進めています。同古墳を、「歴史のまち高槻」の中核として、市民が歴史に親しみ、憩える緑豊かな史跡公園として、平成23年春のオープンに向け整備を進めているところです。

今城塚古墳から出土し、復元された家形埴輪は、高さ170cmもあり日本最大規模なんです。屋根には権威の象徴である堅魚木（かつおぎ）や、神威の象徴を示す千木（ちぎ）を備えており、神殿ともいえる高床式の巨大な建物を表していると推定されています。

さらに、本市には史跡新池ハニワ工場公園があります。この公園は、我が国最古、最大級の埴輪村、新池埴輪製作遺跡を復元し整備したもので、復元された工房や窯、多数の埴輪を見学できるようにしています。毎年、初夏に行われる「ハニワづくりとスケッチ・ぬり絵大会」は、楽しみながら古代の歴史に親しむことができ、多くの参加者で賑わいます。

壮大な歴史ロマンが市民に大切にされ、共有されている様子が伝わってきます。
次に、高槻市の豊な自然環境について紹介していただけますか。

北には豊な森林が広がり、南には淀川、そして市の中心部を芥川が南北に流れており、これらの豊な水と緑、四季折々の花々が市民の心と体を癒してくれます。

中でも、芥川上流の**摂津峡**は、春には3,000本もの桜が咲き誇り、毎年多くの観光客で賑わいます。大分県の耶馬溪に似た景観から、「摂津耶馬溪」とも呼ばれ、Ｖ字谷の深い渓谷美や清流に恵まれています。春は桜、夏は清流での水遊びと手軽に楽しめる自然の楽園です。

この他、市北部の山間の道には、東海自然歩道（箕面国定公園～高尾国定公園（東京）を結ぶ、全長1,697km）が通り、林道や滝、寺院なども点在し、気軽にハイキングや森林浴が楽しむことができます。

また、本市の北部にある花しょうぶ園では、６月の中旬ころから約500品種100万本のハナショウブが紫、白、ピンクなど色とりどりの優雅な花が咲き誇ります。

近年、環境に対する関心の高まりなどから、本市の中心部を流れる芥川の自然回復を目的に「芥川倶楽部」が平成17年に結成されました。市民を中心に府市とともに協力しながら川づくりへの取組を行っています。これまで、魚が遡上しやすいように、土のうによる「魚みち」を作るなどの工事に取り組んできました。

去る３月25日には「アユの棲める自然豊かな環境に！芥川クリーンアップ」と題して、清掃活動を実施しました。芥川倶楽部だけでなく、たくさんの市民が来られました。

さらに、平成18年11月18・19日には、全国各地から川づくりに取り組む団体が参加し、「川づくりサミット in高槻」を開催しました。参加者が川の話をされているときの目の輝きを見ると、川づくりへの熱意が伝わってきました。

今後は、芥川を高槻のシンボルとして、市民とともに川づくりを行っていきたいと考えています。

芥川倶楽部の活動状況

高槻シティ国際
ハーフマラソン

市民の自然に対する思いが伝わってきます。
高槻市では、ユニークな恒例イベントが多いと聞きますが。紹介していただけますか。

本市では、市民と行政が一体となり、協働によるまちづくりを進めています。その中でユニークなものを紹介します。

まず、毎年１月、約5,000人の市民ランナーが新春の高槻を駆け抜ける、**「高槻シティ国際ハーフマラソン」**です。

ファミリー、５㎞、10㎞、ハーフなど色々なコースが選べ、子どもから高齢者までが参加されています。

これは、平成４年に市制施行50周年記念のプレイベントとして始められたものですが、風景の良さと、応援の多い市街地を走ることから人気が高く、すっかり恒例のイベントとして定着しました。コースの整理員や給水係など、運営のほとんどを市民が行い、市を挙げてのイベントへと成長しました。

次に、毎年５月に行われている**「高槻ジャズストリート」**です。

これは、国内外で活躍中のジャズアーティストが街中でライブパフォーマンスを繰り広げるもので、高槻を音楽で盛り上げようと地元のジャズ愛好家らが発起人となり、市民や商店主、音楽家などで構成す

る実行委員会により平成11年から開催されています。全国からアーティストを招聘し、市内いたるところでジャズコンサートが行われ、市内外から訪れる約10万人のジャズファンを魅了する音楽イベントです。市中心部の路上や広場、カフェなどでパフォーマンスを繰り広げ、当日は、街中が音楽であふれます。

最後は、**「こいのぼりフェスタ1000」**を紹介します。

これは、毎年５月５日の「こどもの日」を中心に、４月から５月にかけて、芥川桜堤公園で開催されます。清福寺町の芥川桜堤公園に1,000匹のこいのぼりが揚げられ、空いっぱいに赤や青、黄など色とりどりのこいのぼりが勇壮に泳ぎます。これらのこいのぼりは、家庭で不要となったもののほか、保育園、幼稚園や学童保育室の子ども達の手作りのものもあり、温もりのあるものです。期間中は、イベントなどもあり高槻の新しい風物詩の一つになっています。

高槻ジャズストリート

こいのぼりフェスタ 1000

まち中が活気にあふれている様子が伺えますね。文化や芸術といった面ではどうですか。

最近のものでは、**ランチタイムコンサート**や**高槻太鼓**が人気です。

ランチタイムロビーコンサートは、毎月１回、市役所の１階ロビーで、ランチタイムに行われるコンサートのことです。ランチタイムにクラッシックの名曲の生演奏を無料で気軽に楽しむことができ、市役所周辺にお住まい、お勤めの方が訪れ、盛大に行われています。

高槻太鼓は、高槻の新しい郷土芸能として平成５年に市制50周年を記念して誕生しました。子どもから壮年までメンバーが練習を重ねた結果、市内だけでなく各地の祭やイベントで活躍し、多くの人々との交流を深めています。その取組はテレビでも取り上げられました。

平成16年には、本市の姉妹都市であるオーストラリア、トゥーンバ市の市制100周年の式典に招待され、公演しました。この日は、高槻市民からトゥーンバ市民への贈り物として演奏し、トゥーンバ市民から喝采を浴びていました。

また、本市には、**「淀川三十石船船唄」**というものがあります。

これは、江戸時代から明治時代にかけて、京都・大阪間の重要な交通機関として活躍した淀川三十石船の船頭衆によって唄われた全国でも少ない船歌の一つです。昭和39年、船唄を永く保存するために「淀川三十石船船唄保存会」が結成され、昭和54年に高槻市無形民俗文化財の指定を受け、平成14年には大阪府の無形民俗文化財に指定されました。

淀川三十石船は、江戸時代の大阪・伏見間の旅客専用船で、淀川は経済の中心地である大阪と京都を結び、さらに琵琶湖を経て東海や北陸地方にも通じる物流の大動脈であり、淀川三十石船や貨物船が、人々の生活と経済活動を支えていました。

これら淀川を往来する船に酒や食べ物を売る小舟（煮売茶船）を、くらわんか舟と呼んでいました。

発祥地は本市の柱本地区といわれており、大坂夏の陣などで徳川軍の物資補給に協力した功績により、幕府から営業特権を与えられたといわれています。「くらわんか、くらわんか」と言いながら三十石船に漕ぎ寄せるさまは、東海道中膝栗毛にも登場し、淀川往来の名物でした。

現在、柱本浜があった淀川の堤防に、**くらわんか舟発祥の地碑**が建てられています。

伝統文化は末永く残していただきたいものですね。次に、最近の特徴ある取組を教えていただけますか。

近年、本市の重点施策として**「子育て・教育・食育」**、**「安全・安心のまちづくり」**、**「都市機能の充実」**に取り組んでいます。

まず「子育て・教育・食育」からいくつか紹介します。

今月２日に**子育て総合支援センター（愛称「カンガルーの森」）**が北園町にオープンしました。

このセンターは、本市の子育て支援の拠点として、市域全体の子育て支援力の更なる向上を目指しており、研修・研究、情報発信、交流、相談についての機能をもたせるとともに、周辺の子育て関連施設を

総括し、支援ネットワークの強化、各種支援事業の拡充等を図って行きます。

また、主に乳幼児（０～３歳）とその親が気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で語り合い、相談し、共に学び会うことのできる**つどいの広場**については、市内13ヵ所の整備を予定しています。昨年度は４ヵ所の整備を行い、今年度以降も継続して整備を行います。

幼保一元化の取組も進めています。今年度より市立芥川幼稚園と桜台幼稚園において、保育所と同じように朝８時から夕方６時まで、そして土曜日や夏休みにも保育を実施し、働く保護者の子育ての支援を目的とした「就労支援型の預かり保育」を開始します。これは大阪府内の公立幼稚園で初めての取組です。

４ヶ月児健診時に赤ちゃんに絵本をプレゼントする**ブックスタート事業**を昨年度から開始しています。これは、子どもの本離れが進んでいるのを食い止めるだけでなく、絵本を読み聞かせることにより親子のきずなを深めることも目的にしています。

さらに、子ども達の未来のため、食育について市民に広くアピールする**高槻市食育フェア**を昨秋に開催しました。子ども達を対象にしたものでは、遊びを通じて食の大切さを理解してもらえるように**食育かるた**を製作し、市内の小学校、幼稚園、保育所へ配布し、**食育紙しばい**を教育委員会の栄養士を中心に作成して小学校低学年の授業で活用しています。

次に「安全・安心のまちづくり」では、市バスの車体に犯罪への注意を呼びかけるイラストを描いたラッピングバスの運行や、そのイラストと同様の絵柄のステッカー、マグネットを作成し、市民、事業者に配布し自家用車、事業車に貼付してもらい、犯罪への注意を喚起することにより子ども達を犯罪から守る取組を進めています。

また、心肺停止など万一のために、365日、24時間、医師が救急車に同乗して出動する特別救急隊を府内で初めて昨年10月より本格運用をしました。

これからも市民が安心して暮らせるまちづくりを目指して取り組んでいきます。

高槻太鼓　トゥーンバ市にて

教育おしえて☆たかちゃん

「都市機能の充実」では、平成16年にＪＲ高槻駅北地区の市街地再開発事業が完了しました。商業施設、高槻駅北地下駐車場、駅前広場、バスロータリーが整備され、高槻市の玄関にふさわしい風格ある街並みが誕生し、多くの人々で賑わっています。

今までお話した取組を、市民により楽しく分かりやすく情報発信するため、創意工夫を凝らしています。施政方針や市の仕事を**「おしえて☆たかちゃん」**というマンガで楽しくわかりやすく説明しています。

小学４・６年生には社会科などの教材として、また市内公共施設でも配布しています。市ホームページにも掲載していますので一度ご覧ください。このように市の取組をマンガ化したのは高槻市が全国初でした。

（http://www.city.takatsuki.osaka.jp/oshirase/oshirase-manga18.html）

また、市のホームページについては、「オープン」と「スピード」を基本に積極的に情報発信に取り組み、それが評価され社団法人日本広報協会主催の平成18年度全国広報コンクール「ホームページ・市部」において総務大臣賞を受賞しました。

これからも、積極的に楽しくわかりやすい情報発信に努めていきたいと考えています。

多彩なアイデアから生まれた、先進的な取組が多いですね。

最後になりますが、これからの取組について教えていただけますか。

市内にある５つの大学は、良好な都市イメージをつくり、市民生活を豊かにする大切な財産です。大学と地域、行政が連携し、都市文化の振興やまちの活性化を図るため、大学・学生と市民との幅広い交流活動を促進させる場となる「大学交流センター」を設置し、市民講座などに取り組んでいます。

また、第二名神自動車道の整備が始まります。将来は、本市初のインターチェンジが設置されることにより、周辺地域の交通利便性が向上し、新たな産業の誘致が促進されるとともに、災害時の緊急輸送ネットワークの確保等、大きな整備効果が期待されています。

“さわやか未来　ふるさと高槻「心ふれあう　水とみどりの生活・文化都市」の実現”を目指し、空高く伸びる槻の木のように前進してまいりたいと思います。

更なる発展をされることを祈念しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。